

2015(平成27)年度第1回「子ども支援ネットワークづくり」推進教員研修会

2015年度「子ども支援ネットワークづくり」推進教員研修会として、夏に5講座を開催しました。実践を通して、学び合うことのできる有意義な講座となりました。三重県人教の会員研修会と兼ねて開催したことで、推進教員だけでなく多くの教職員が集まり、活発な質疑、意見交流ができました。

講座の様子を参加者の感想でふり返ります。

講座① 超えるべき課題を

子ども・家族・地域・職員とともに超えていくために

～地域立川口小学校の取組から～

○講師：西谷 育世 さん（津市立川口小学校）

○8月6日（木）13：30～15：00

「自分や家族、地域に胸をはらせたい」「折れないチカラをつかませたい」「明日を描かせたい」・・・そんな願いにこだわりながら日々の教育実践を重ねている川口小学校のチームとしての取組に学ばせていただく機会となりました。



参加者の感想より

- レジリエンスを十分感じさせてもらいました。次の自分の力に変えていきたいと思えます。
- 他の同推校の実践を聞かせてもらえたらうれしいです。
- 改めて子どもたちが明日を描く力や社会で生きぬく力を身につけてほしいと思いました。具体的な実践を本校の人権教育にも参考にさせていただきたいと思いました。
- 今現在も多くの部落問題があることを知りました。家庭訪問等、取組がたくさんあって驚きました。家庭でさまざまな事情がある中で、学校で語り合うことで親とも語り合えたりすることができるようになるんだなと思いました。子ども・地域・保護者・学校が一体となって教育していく大事さを実感しました。
- とてもすばらしい実践を聞かせていただき、勉強させていただきました。
- なぜそうするのか、子どもたちにとって、何を学ばせ考えさせることが大事なのか、どういう環境をつくっていくことが大事なのか。私も考えていく学習になりました。
- 何のために人権教育をすすめたいのか、その子をどうしたいのか、というのをわすれることなく、コツコツとすすめていこうと、もう一度思いました。



講座② 「統一応募用紙」の取組

～保護者氏名欄斜線化は、いかにして実現したか～

○話し手：鈴木 英哉 さん（三重県立宇治山田商業高等学校）

○8月6日（木）15：15～16：45

今年で「統一応募用紙」の保護者氏名欄が削除されてから10年となります。三重県では、それに先駆けて、保護者氏名欄に斜線を引く取組をおこないました。斜線化に至った経緯や議論したことなどを、この取組に携わった鈴木さんから聞き、「進路保障」とは何かを考え合いました。



参加者の感想より

- 生徒や職場に伝えたい内容がたくさんありました。
- はじめての「統一応募用紙」の研修。ありがとうございました。
- 関わられた方々の思いに共感しました。自分の意識をあらためて見つめる機会となりました。自分の運動へつなげるエネルギーについて反省します。
- 経緯に関わられた方のお話は有り難かったです。企業の取組がどのように変わっていったか、またお聴きしたいです。



講座③ 地域と学校の「つながり」と「協働」を求めて

○講師：鈴木 逸郎 さん (CS マイスター)

大村 尚子 さん (松阪市立第二小学校)

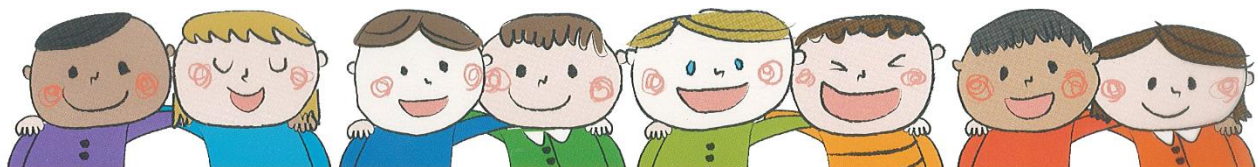
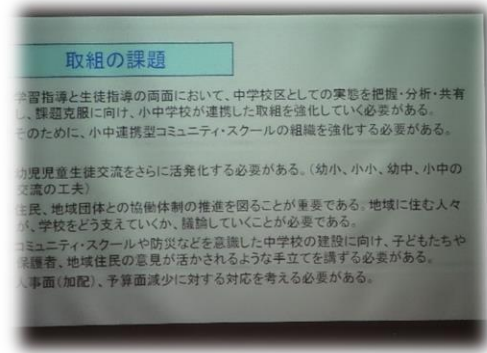
○8月7日(金) 13:30~15:00

地域や家庭の教育力が低くなっているといわれているなか、子どもを中心とした地域づくり、学校づくりが求められています。“生まれてから中学生までの子どもは地域で育てる”。松阪市立第四小学校区で取り組むコミュニティスクールの取組をもとに、これからの人権教育や学校のあり方を考え合いました。



参加者の感想より

- コミュニティスクールとは聞くものの、どんなものなのかというのがわからなかったけれど、なんとなくイメージできたかな。学校を核として、地域を動かしていくということなのですが、学校から働きかけていくというより、行政(地域)からの働きかけをしていってもらうことが必要なのではないかと思いました。
- コミュニティスクールについても無知であったところに、わかりやすく説明していただけたため、よくわかりました。子どもたちを中心に据えて、周囲の者がどうかかわっていくか、子どものためにも地域のためにも良い活動である。



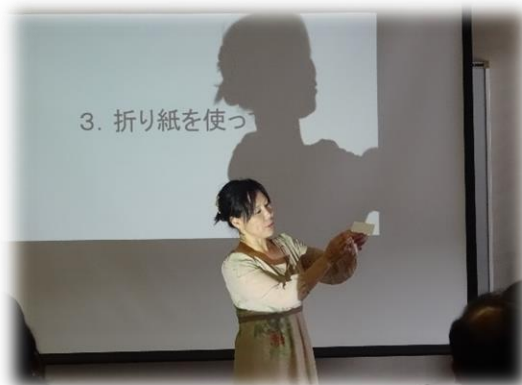
講座④ やってみよう！ 参加型人権学習

○講師：林 弓（三重県人教事務局）

○8月7日（金）15：15～16：45

教職員意識調査においても、「受けた研修」として要望が多かった参加型人権学習の研修講座を開催しました。

保護者向けの研修会や懇談会、学級活動などに活用できる参加型人権学習をいくつか紹介し、実際に体験しながら、一つ一つの教材のポイントとなることを学び合いました。



参加者の感想より

- 参加型は毎年研修会してください。本だけより、体感することができて、いいです。
- あっという間の研修でした。これから自分で勉強を続け、子どもたちにも笑顔でまわりとつながるよい時間を共有できるよう努力します。
- 今後役立つ研修となりました。参加型の人権学習は、学校だけでなく、PTA や地域でもおこなわれ、我々はその進行を担うことが求められます。90分間ではありましたが、たいへん参考となりました。ありがとうございました。
- 作業ゲーム、グループ活動を通して、まわりとつながれる機会が増えたり、つながろうとする際に考えたりすることがとても勉強になった。子どもたちにも実践してみたいと思いました。
- やりとりし合う（アイスブレイク等）ことの具体的な方法をワークショップで楽しくやらせてもらって、わかりやすかったです。



講座⑤ 人権・同和教育のこれまで そして これから

○進行：垣田 智一・増井 光自（三重県人教事務局）

○8月13日（木）13：30～16：45

同和教育を基軸とした人権教育を継承・発展させていくために、昨年度の第2回「子ども支援ネットワークづくり」推進教員研修会で開催した講座の第2弾として、同じテーマで、2講座分の時間を活用した講座を開催しました。小グループで人権教育や人権学習についての意見交流や情報交換をおこないました。話し合いを通して、今後の取組に向けての具体的なヒントを共有し合ったり、これからの三重県の人権教育の発展と推進にむけてのネットワークの輪を拡げていったりする機会となりました。



参加者の感想より

- 人権教育について大切にしなければいけないことの確認ができ、新しい発見もあり、とても月並みな言葉ですが、内容はとても濃いものだったと思います。何度も繰り返し話題にし、そして議論していかなければいけないと改めて感じました。今後の研修に活かしたいです。
- 様々な経験や思いをお持ちの方とじっくり話して交流できてよかったです。これからも、もっと考えて深めていく課題を再確認できました。自分をふり返る、問い直す貴重な時間になりました。

